

CHOP INTEND スコアシート

Children's Hospital of Philadelphia Infant Test of
Neuromuscular Disorders

監修

東京女子医科大学 臨床ゲノムセンター 所長・特任教授／
東京女子医科大学 遺伝子医療センター ゲノム診療科 特任教授
齋藤 加代子 先生

監修

東京女子医科大学 リハビリテーション科 教授
猪飼 哲夫 先生

監修

東京女子医科大学病院 リハビリテーション部 理学療法士 主任
長谷川 三希子 先生

These materials were developed as part of a collaborative effort between the Pediatric Neuromuscular Clinical Research Network (PNCRN) and the International Spinal Muscular Atrophy Consortium (ISMAc) and reproduced with permission for the purpose of training healthcare professionals in these assessment tools developed for spinal muscular atrophy (SMA) patients.

CHOP INTEND スコアシート

Children's Hospital of Philadelphia Infant Test of Neuromuscular Disorders

氏名: _____ 生年月日: _____ 年 月 日 年齢: _____ 歳 カ月
 診断名: _____ 評価日: _____ 年 月 日
 評価時間: _____ 時 分 直近の授乳・食事からの時間: _____ 時間 分
 呼吸: サポートなし NPPV TPPV 評価者: _____
 (使用時間: _____ 時間/日、評価時の使用: 有 無) NPPV: 非侵襲的陽圧換気療法、TPPV: 気管切開下陽圧換気療法

項目	開始姿勢	手順	採点基準	点数
1 自発運動 (上肢)	背臥位	テスト全体を通じて観察する 反応を引き出すために、上肢の重みを除去または児を刺激してもよい	肩関節の抗重力運動 (肘が床から離れる)	4 左 点数の高い側 (点数):
			肘関節の抗重力運動 (手および前腕が床から離れる)	3 右 ステート:
			手関節の運動	2
			手指の運動	1
			上肢の運動なし	0
2 自発運動 (下肢)	背臥位	テスト全体を通じて観察する 反応を引き出すために、下肢の重みを除去または児を刺激してもよい	股関節の抗重力運動 (足および膝が床から離れる)	4 左 点数の高い側 (点数):
			抗重力的な股関節内転/内旋 (膝が床から離れる)	3 右 ステート:
			下肢の重みを除去した場合の自発的な膝関節/ 股関節の運動	2
			足関節の運動	1
			下肢の運動なし	0
3 把握	背臥位	把握の強さ: 検者の指を児の手掌に入れ、肩が床から離れるまで持ち上げ、児の握りがいつ緩むかを観察する 月齢の高い児では、握りやすい玩具を用いてもよい	肩が床から離れるまで握りを維持する	4 左 点数の高い側 (点数):
			肘が床から離れるまで握りを維持する (肩は床についている)	3 右 ステート:
			前腕が床から離れるまで握りを維持する (肘は床についている)	2
			牽引していない状態でのみ握れる	1
			握れない	0
4 視覚刺激による 頭部の正中復帰*	背臥位 頭部正中位	視覚刺激には玩具を用いる 頭部が正中位で5秒間保持できることを確認し、次に頭部を最大限に回旋させ、正中位へ戻せるか視覚刺激を与える	頭部を最大回旋位から正中位に戻す	4 左から右 点数の高い側 (点数):
			正中位の途中まで戻す	3
			5秒より長く正中位で保持する	2 右から左 ステート:
			5秒以下正中位で保持する	1
			頭部は側方に回旋し、正中位に復帰させる試みはない	0
5 股関節屈曲内転	背臥位、おむつなし	両股関節は屈曲内転させる 両足は腰幅に離し、両大腿は平行、両膝はわずかに離す	膝を床から5秒より長く離せる または足を床から離せる	4 左 点数の高い側 (点数):
			膝を床から1から5秒の間離せる	2 右 ステート:
			膝を床から離れた状態に保持できない	0
6 寝返り: 下肢からの誘発*	背臥位 (両上肢は体側に) テストする側を上に向けた状態で、一側から対側方向へ寝返る力をかけ続ける	1. 児の片側の下腿を把持し、股関節および膝関節を屈曲させ、正中線を越えて内転させて骨盤を床と垂直にし、牽引をしながら止める 2. 児が側臥位になれば、体をより回旋するように体幹に対して45度斜めに牽引をしながら止める	牽引をかけていると最後に、側方の頭部立ち直りを示し、腹臥位に寝返る	4 右側へ 点数の高い側 (点数):
			腹臥位に寝返るが、側方の頭部立ち直りは示さず、体重のかかっている上肢を完全に引き抜いて寝返りを終える	3
			骨盤、体幹および上肢が支持面から持ち上がり、頭部は側面が下になり、上肢が体の前までくる	2 左側へ ステート:
			骨盤および体幹が支持面から持ち上がり、頭部が横向きになる 上肢は体幹の背側に残っている	1
			骨盤が受動的に支持面から持ち上がるにとどまる	0
7 寝返り: 上肢からの誘発*	背臥位 (両上肢は体側に) 一側から対側方向へ寝返る力をかけ続ける	1. 児の片側の肘を把持し、対側の肩に向かって動かし、腕の牽引をしながら、 両肩が垂直になるところで停止し 、児に寝返りを行わせる 2. 骨盤が垂直になったならば牽引し続ける	側方の頭部立ち直りを示し、腹臥位に寝返る	4 右側へ 点数の高い側 (点数):
			腹臥位に寝返るが、側方の頭部立ち直りは示さず、体重のかかっている上肢を完全に引き抜いて寝返りを終える	3
			側臥位になり、下肢は内転し、骨盤が垂直になる	2 左側へ ステート:
			頭部が横向きになり、肩および体幹が床から持ち上がる	1
			頭部は横向きになるが、体幹はそのまま動かないまたは肩が受動的に持ち上がるのみ	0

製造販売元 [資料請求先]

バイオジェン・ジャパン株式会社

〒103-0027 東京都中央区日本橋一丁目4番1号

2018年9月作成
SPI-JPN-0572
SPI058MA01